

令和8年8月24日

備前市議会議長 石 原 和 人 様

請 願 者 備前市木谷152-1
市民連合@和気・備前懇談会
世話人 梶 藤 澄 男
紹介議員 中 西 裕 康

請 願 書

1 請願の要旨

高市早苗首相は、8月6日の平和記念式典での挨拶で、核兵器禁止条約に触れないばかりか、国是の非核三原則を将来にわたり堅持するとも言いませんでした。被爆国が被爆を忘れ、なかったことにしようとしています。平和が瀬戸際に立たされている今私たちは政府に非核三原則の堅持・法制化を強く求めます。

2 請願の趣旨

核兵器禁止条約の締約・署名国は100か国を超え国際社会に着実に支持を広げています。日本被団協の田中重光代表委員は、「国民の7割が禁止条約の批准を求めており、一日も早く署名・批准すべきだ。せめて禁止条約第1回再検討会議にオブザーバー参加し、なぜ世界が核兵器をなくそうとしているのかを聞いてほしい」と訴えています。

2026年6月19日、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）、原水爆禁止日本協議会（日本原水協）、原水爆禁止日本国民会議（原水禁）の3団体は、衆院第1議員会館で日本政府に核兵器禁止条約に署名・批准を求める署名22万4,648人分（第2次分、累計367万3,660人）の提出と合わせて非核三原則の厳守などを求める要請書を外務省に手渡しました。

確認された原爆死没者は今年一年間の死者4,393人を加えて、累計で35万3,639人が亡くなっています。「全身焼けただれて男とも女ともわからない、腕を前に出し、そろりそろりと無言で動いてくる、目がすわり、自分の皮膚が指先から手袋をむいたように垂れ下がり地面に引きずっている異様な赤裸の群れが道路にあふれている、この世の地獄。」被ばく81年の証言者（94歳）の脳裏に焼き付いた光景です。

高市氏は出版した著書で、「守るのは国民の命か、非核三原則かという究極の事態に至った場合、『堅持する』の文言が邪魔になる」と述べており、軽々しく「国是」を閣議決定で覆そうとしているのは明らかです。高市氏は核兵器の撃ち合いで国民の命が本当に守れるのか、核兵器の地獄を本当に分かっているのか、今こそ私たち市民は非核三原則の堅持を政府に強く求めなければならない。

3 請願事項

日本国政府は国是である非核三原則を永久に堅持し続け、世界に向かって表明する責任があるこのことを政府、関係機関に要請する。